

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 23年6月－4-6月期の外需 寄与度は前期比 1.0%程度的大幅プラスに

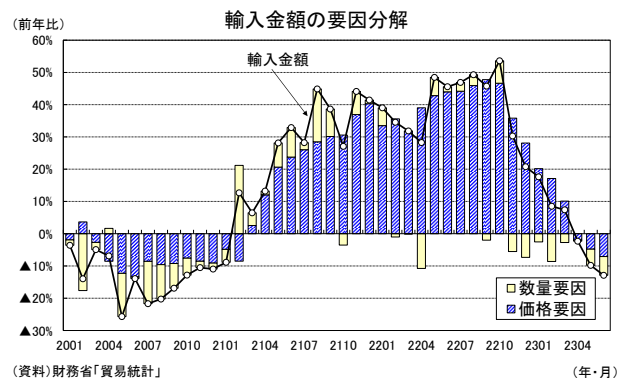
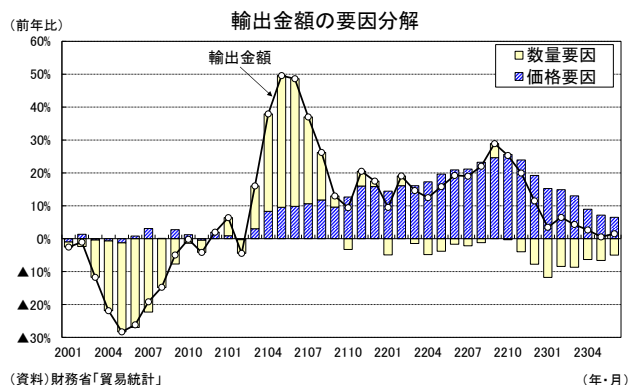
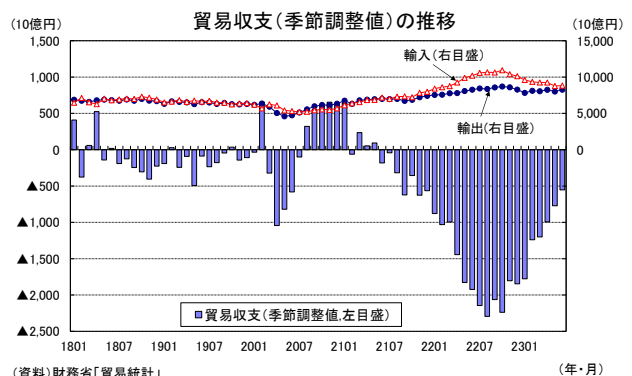
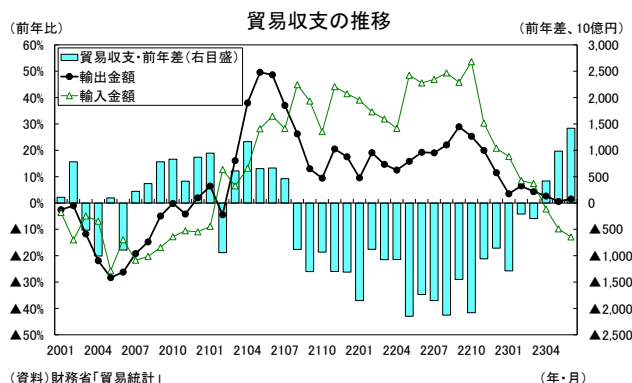
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易赤字(季節調整値)の縮小が続く

財務省が7月20日に公表した貿易統計によると、23年6月の貿易収支は430億円の黒字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲467億円、当社予想は354億円）を上回る結果となった。輸出が前年比1.5%（5月：同0.6%）と伸びを若干高める一方、輸入が前年比▲12.9%（5月：同▲9.8%）と減少幅が拡大したため、貿易収支は前年に比べ14,180億円の改善となった。

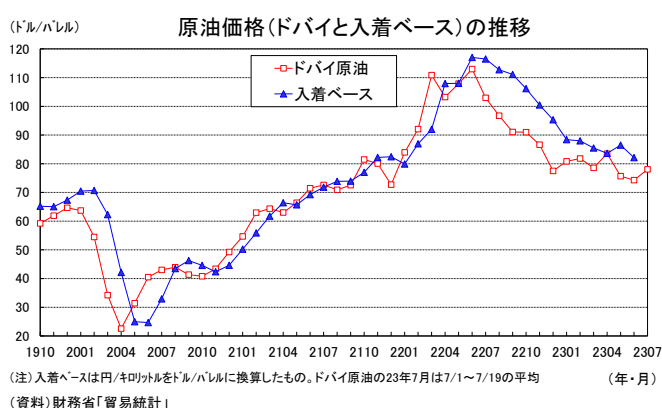
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲4.8%（5月：同▲6.4%）、輸出価格が前年比6.7%（5月：同7.4%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲6.1%（5月：同▲5.1%）、輸入価格が前年比▲7.3%（5月：同▲4.9%）であった。



原数値の貿易収支は黒字となったが、6月は貿易黒字になりやすいという季節性がある。季節調整済みの貿易収支は▲5,532億円と、5月の▲7,710億円から赤字幅が縮小したが、21年6月以降、

25 ヶ月連続の赤字となった。貿易赤字（季節調整値）は22年夏場のピーク時から大きく縮小しているものの、実勢として赤字を脱したわけではない。

23年6月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=82.1ドル（当研究所による試算値）と、5月の86.5ドルから低下した。足もとの原油価格（ドバイ）は80ドル前後で推移しており、長期契約で販売する際に指標価格に上乘せされる調整金、船賃、保険料などを含めた通関ベースの原油価格は、7月に80ドル程度まで下落した後、8月には80ドル台半ばまで上昇することが見込まれる。



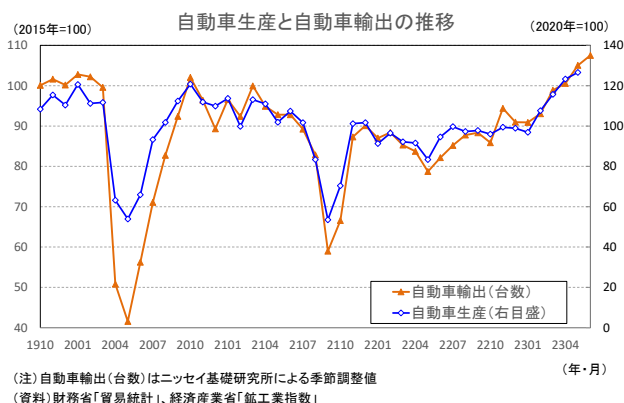
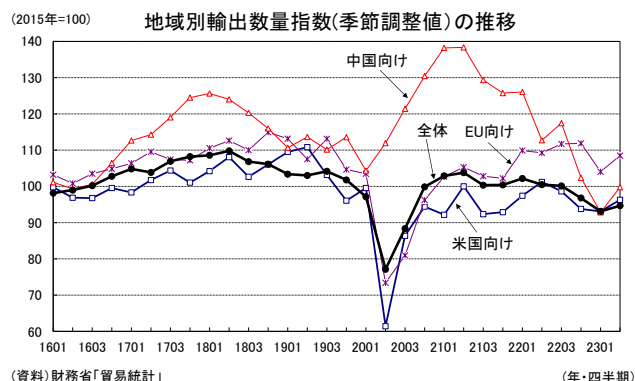
2. 供給制約の緩和を背景に自動車輸出の回復が鮮明に

23年6月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲4.0%（5月：同▲4.2%）、EU向けが前年比▲0.0%（5月：同0.2%）、アジア向けが前年比▲11.5%（5月：同▲12.5%）、うち中国向けが前年比▲14.3%（5月：同▲10.3%）となった。

23年4-6月期の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）でみると、米国向けが前期比3.4%（1-3月期：同▲0.7%）、EU向けが前期比4.2%（1-3月期：同▲7.0%）、アジア向けが前期比0.3%（1-3月期：同▲4.4%）、うち中国向けが前期比7.5%（1-3月期：同▲9.4%）、全体では前期比1.7%（1-3月期：同▲3.8%）となった。

輸出は弱い動きが続いていたが、23年4-6月期は主要国・地域向けがいずれも前期比で上昇し、持ち直しの動きとなった。ただし、中国はゼロコロナ政策終了後の景気回復ペースの鈍さを反映し、22年度後半に急速に落ち込んだ後としては戻りが弱い。

品目別には、IT関連輸出の低迷は続いているが、供給制約の緩和を受けて自動車輸出の回復が鮮明となっている。自動車輸出台数（当研究所による季節調整値）は23年2月から5ヵ月連続で増加し、コロナ禍前の水準を上回っている。先行きの輸出は、海外経済の減速を背景として回復ペースは緩やかなものにとどまることが予想される。



3. 4-6 月期の外需寄与度は前期比 1.0%程度のプラスに

6月までの貿易統計と5月までの国際収支統計の結果を踏まえて、23年4-6月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出が前期比4%程度の増加、輸入が前期比▲1%程度の減少となった。この結果、4-6月期の外需寄与度は前期比1.0%（1-3月期：同▲0.3%）のプラスとなることが予想される。

当研究所では、鉱工業生産、建築着工統計等の結果を受けて、7/31のweeklyエコノミストレターで23年4-6月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。現時点では、外需が成長率を大きく押し上げることに加え、民間消費、設備投資などの国内需要が底堅く推移することから、前期比年率4%台後半の高成長を予想している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。